

みなさん、こんにちは。

卒業式、修了式が終わり春三月が過ぎようとしています。甲子園ではセンバツが始まり、春の到来を感じさせています。

1. 「昭和なつかし博覧会」後期の部も終了 13,000 人の入場者

1月から開催していた「昭和なつかし博覧会」の後期の部が終了。前期が15,000人超、後期も13,000人と大好評の展覧会となりました。会場に置いていた感想ノートから観覧された方々の声に耳を傾けてみると、次のような言葉がありました。

楽しみにしていただけに、とても懐かしく亡き両親を思い出し、感動しながら見えています。

昨年と比べてグレードアップしています。そのためより昭和の思い出がよみがえり、一つ一つの店や品物に哀愁を感じます。昔は高度経済の走りだったため、働くのが精一杯だったのですが、今のように陰湿ないじめや悲惨な事件等は少なかったように思います。まだまだ昭和の時代を生き抜いた人が語り部となって、こういう展示も大いに広めていただき、「親子三代」の語らいの場を提供してくれることをこれからも望みます。



ロビーに広がる街角



ブリキのおもちゃ



浜国道沿いの瓦工場写真(昭和46年)

今年72歳の老人ですが、子どもの時、まずしかった小学生時代、よくここまで生きてこられたと息子に連れてきてもらって今日うれしい日です。この部屋に入って懐かしさで胸がいっぱいです。

むかしの町なみが、今よりもゆたかだと思いました。(明石市内 小学生)

「三丁目の夕日」を見たけれど、あれは東京のこと。明石へ嫁いで50年余り、私の来る前の様子がわかり、懐かしく拝見しました。昭和30年代～現在、変わったけれどやっぱりこの街が大好きです。(主婦72歳)

ボランティアの人が物の名前や使い方を教えてくれたのでうれしかったです。

昭和22年生まれ、国語の教科書を見て思ったのは、ずい分難しい事を習っていたんだなということ。あの時代よく勉強したなあ、やはり一生懸命勉強しないとだめなんじゃないかな。

2. ワークショップ「布ぞうり作り」

3月18日(日)は毎回好評のワークショップ「布ぞうり作り」を開催。熱心に布を編み上げ、隣同士の方も仲良く布を分け合ったりと楽しいひと時を過ごしました。



編み初めの準備



配色を考えて



あれ?ちょっと小さいかも

「思ったより難しかったです。でもやり出すと必死で、出来上がったものは夏に履く予定です。タオル地は気持ち良さそうなので、今度はタオルでも作ってみたい」と二見の前畑さん。